

令和3年度 学校評価シート

学校名： 新宮高等学校 定時制 学校長名： 東 啓 史

めざす学校像 育てたい生徒像	・「知・徳・体」を磨き、人間形成を図るとともに、郷土や日本社会・国際社会に貢献しようとともに新しい伝統を創造する生徒を育成する学校 ・学びを大切に、生徒に向き合う教育を実践する地域に開かれた学校
-------------------	--

本年度の重点目標	1 基礎学力の向上に向けて、わかる授業の実践を行い、基礎・基本の定着を図る
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2 学業と就業の両立を推進し、望ましい職業観・勤労観の育成を図る
	3 生徒一人ひとりの自立心や相互に尊重し合う心を涵養する
	4 学校行事、教育相談等の充実を図り、特色を生かした教育実践を行う

中期的な目標	「地域から信頼される学校」をめざし、生徒一人一人に寄り添い社会的自立を促し、地域に貢献できる人材の育成に努めることを目標とする。
--------	--

学校評価の結果と改善の方策の公表の方法	○各保護者への配付や本校ホームページにて広く公表していく。
---------------------	-------------------------------

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重点目標					年度評価(1月21日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善方策
1	就労生徒や小・中学時代の不登校経験者、他校からの転入生、高校への再チャレンジの生徒等が在籍している。中途退学者数も増える傾向にあり、生徒一人ひとりの多様なニーズやつまづき等に対応する必要がある。学習内容の厳選や学習指導の方法・形態等、工夫や改善等が課題である。	生徒の基礎学力の向上やわかる授業の実践に向けて、教材研究や指導法の改善等、創意工夫に努めているか。	学習内容や指導方法についての工夫や改善 研究授業や公開授業の実施 授業規律の確立 補習授業の実施	教材の精選、視聴覚機材等を積極的に活用する。 研究授業と公開授業を必ず実施する。 遅刻・早退、欠席生徒(授業の中抜けを含む)への指導を徹底する。 長期休業中等に遅進者補習を実施する。	○視聴覚教材、ICTを活用した授業については、教科によって工夫が見られた。 ○学校開放月間の2日間と通常の授業公開を実施した。 ○欠席生徒等への家庭連絡は適切に行なった。 ○夏休みの成績不振生徒に対する補習を実施した。	B	○学習指導要領の趣旨を理解し、わかる授業の確立を目指してICTを活用した指導法の工夫・改善が必要である。 ○授業規律を確立するとともに、学習に対する意欲を持たせるための授業改善が必要である。 ○欠席は少ないものの意欲や理解度の低い生徒への対応についての取り組みが必要である。
2	全国的には景気が上昇傾向にあるが、本校生徒を取巻く環境は依然厳しい状況にあり求人はほとんどない。生徒の学力不足、社会性の欠如、進路意識の低下等から、卒業後の進路保障が困難な状態である。	生徒の就労・学習実態を把握し、職場・家庭・ハローワーク等との連携を密にし、定時制生徒に適した望ましい職業観・勤労観を育むための具体的な取組が展開されているか。	家庭訪問や三者面談、個人面談の実施 進路意識向上のためのガイダンス機能の充実とハローワークとの連携の強化 就業所訪問の実施 三修制生徒のためのゼロ限授業の実施	1回以上、家庭訪問(三者面談)、個人面談を実施する。 各学期毎にガイダンスや進路講演会を開き、ハローワークとの連携を行い、迅速に情報を生徒に伝える。 就業所を訪問し就労実態の把握に努め、正規採用に繋がる取組をする。 ゼロ限授業を実施し単位を修得させる。	○三者面談(個人面談)は1回以上行った。家庭訪問は、かなりきめ細かく実施することができた。 ○課題を抱えた生徒が多く、連絡や家庭の協力が築けないこともあったが、関係機関と連携はしっかりとれた。 ○計画した講演等を通して規範意識や社会性を学び、自立や自己肯定感を育てることができた。	B	○近隣校や関係機関と情報共有を図り、新規求人開拓を図る。 ○進路実現に向けて、もっと早い時期に動機付けが必要である。(1・2年次) ○コロナ禍で講演等の計画も困難であるが、社会性の向上を図るための活動を実施していきたい。
3	家庭的に恵まれない生徒が少なくない。一人ひとりの繋がりや集団に対する帰属意識も希薄であるため周囲に流されやすく、他者を思いやり、自らの行動を正しく選択し意思決定する機会が少ないのが現状である。	自分の将来や生き方について、希望を持たせ、精神的・社会的自立を促し、集団社会の一員としてお互いに尊重し、よりよい生活態度を構築していこうとする態度が養われているか。	人権LHR等の充実 生活体験発表等の実施 教室をはじめとする施設・設備の美化と清掃活動等の実施 LHRをはじめとする特別活動の充実	各学期毎に人権LHRを実施し、人権尊重の精神を養う。 発表を通じて学校生活への意欲や自立心を引き出し、自己肯定感を養う。 体験活動を通じて、環境保全に努める態度を養う。 集団生活や社会生活に必要な社会的資質を育成する。	○学期に1回、人権LHRを実施した。3学期に現職教育を実施し地域の課題について共通認識できた ○一斉清掃を毎日実施し、日常の教室等の美化保全に努めることができた。 ○LHRや特設ASは、十分に実施することができた。	B	○来年度も人権年間指導計画に基づき、講演、体験、ビデオ鑑賞等の形式で、身近な問題として考えられるよう工夫する必要がある。 ○美化や環境保全の態度を養う機会を設定すべきである。 ○学校行事等への参加をより一層促すために、内容等を検討していく必要がある。
4	生徒が学校行事、特別活動等に費やす時間が少ない。また教員が校内で生徒一人ひとりに向き合う時間等も制限されている。定時制の特色を活かし、教育相談等を活用しながら、一人ひとりを大切にす指導を目指す必要がある。	本校の特色を活かした行事等への参加を通じて、生徒一人ひとりが満足した高校生活を送り、生徒が抱える様々な問題を見逃さないきめ細かな指導ができていくか。	春・秋の遠足と保護者・教職員参加のレクリエーションの実施 SC(スクールカウンセラー)の活用や地域や関係機関との連携	様々な行事を通じて生徒間、教師・保護者との親睦を図る 心の相談や不登校・特別支援が必要な生徒へ対応し、関係機関と連携を深め、問題解決を図る。	○学校行事等の特別活動への参加率は昨年度に比べ多かった。コロナ禍により修学旅行・遠足が中止となってしまった。 ○避難訓練や生徒会主催の行事を数多く体験することで、生徒自身の取り組み姿勢も変化した。 ○保健室で悩み等、気軽に話すことができる空間となっている。	B	○行事等の参加を通じて帰属意識を育てる取組を粘り強く行っていききたい。 ○引き続き教育相談、特別支援体制の充実を図る。 ○生徒の些細な変化について共痛理解が必要で、一致団結して課題に取り組む教師集団を目指す。

4年 1月12日～21日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
生徒・保護者・学校関係者評価を実施。(計39名)
<p><プラス面> 以下は、ほぼ全員が「そう思う」か「どちらかというと思う」と回答した質問 ○本校定時制が当地域で一定の役割を果たしている ○今後、この地方に定時制教育が必要である ○本校の生徒は、学業と勤労を両立させている ○公共の施設や設備を大切に使用している</p> <p><マイナス面> アンケート項目の内、「明るく生き生きと学校生活を送っている」「保護者や地域の意見が取り入れられている」「本校の生徒が将来社会人として生きていくための取組は十分行われている」については他と比べて「そう思う」という回答は低かったが、昨年に比べると若干ではあるが向上した。</p> <p><直接的な意見> 学校に対して感謝の言葉があると同時に、更なる教育の充実を望む声もあった。 ○新宮・東牟婁地方において定時制は問題を抱える子供にとって、最後の砦のような存在なので、これまで以上に地域に密着して存続してもらいたい。 ○生徒一人ひとりにきめ細かく指導してくれたのでとても感謝します。 ○徒歩で駅まで女子生徒が下校しているが、安全面、危機管理の点で不安はある。電車の本数も少ないため仕方ないとは思いますが、検討してほしい。 ○コロナ関連の欠席及び出席停止についての質問が多かった。</p>